

日羽協試験方法	臭気試験方法（湿潤状態）	JDFA-TM006 2018/12
---------	--------------	-----------------------

## 序文

羽毛の臭気を湿熱環境で発生促進し、臭いの強度及び不快度の官能評価から合否判定する試験方法を定める。

### 1. 試験装置

- (1) 共通すり合わせ三角フラスコ JIS R 3503 に規定する 500mL のもの
- (2) 恒温乾燥機 三角フラスコを入れて 60℃で一定温度を保てるもの。
- (3) 霧吹きスプレー

### 2. 試料の準備

試験に用いる羽毛は、日羽協試験方法（JDFA-TM001 試験のためのサンプリング方法）によって採取し、均一に混合する。

### 3. 試験条件

- (1) 試料の調整および臭気の判定は標準状態（20±5℃、65±20%RH）で行う。
- (2) 試験に使用する共通すり合わせ三角フラスコは臭気試験専用のものとし、一般の清浄度試験などに使用するものと区別して管理する。試験の前後には水でよくすすぎ、臭いの付着や残留が無いよう気をつける。

### 4. 試験操作

- (1) 均一に混合し、標準状態に十分放置した試料から、5.0±0.1 g の試験試料を 2 個採取する。
- (2) 空の三角フラスコの内面に、水（JIS K 0557 の 4 に規定する A3 又は A4 の水）を霧吹きスプレーで約 2.5 g 噴霧する（写真 1）。その後 (1) で採取した試料を三角フラスコに入れ、上からさらに約 2.5 g の水を噴霧する（写真 2）。



写真.1 空のフラスコ内面に水を噴霧



写真.2 羽毛を入れた後に水を噴霧

- (3) 三角フラスコをラップフィルムで軽く蓋をした後、恒温乾燥機に入れ 60℃で 60 分処理する。処理後乾燥機から三角フラスコを取り出し、標準状態で 2 時間放置した後ラップを外し共栓をする。
- (4) 臭いの少ない標準環境下で三角フラスコの共栓を取り、フラスコの口から 1～2 cm の距離まで鼻を近づけて、試料の臭いを嗅ぐ。
- (5) 5 人の検査員で 2 つの試料をそれぞれ下記の表に基づき臭気強度および不快度を等級付けする。

○臭気強度測定（6段階 臭気強度）

等級	臭気強度
0	無臭
1	やっと感知できる臭い（検知閾値濃度）
2	弱い臭い（認知閾値濃度）
3	らくに感知できる臭い
4	強い臭い
5	強烈な臭い

○不快度測定（5段階 不快度表示）

等級	不快度
0	快でも不快でもない
1	やや不快
2	不快
3	非常に不快
4	極端に不快

注) 臭気判定の検査員は、定期的に能力検査を行い合格したものの中から選定することが好ましい。

5. 試験結果

5人×2試料、計10測定の臭気強度と不快度の平均値を小数点以下1桁まで求め、下記の基準で判定を行う。

判定基準	評価
臭気強度（平均値）：3.0以下 かつ、不快度（平均値）：1.5以下	合格
臭気強度（平均値）：3.0超 または、不快度（平均値）：1.5超	不合格

以上（2018/Dec/12）